

令和4年8月25日

## 南の風アカツキジャパン女子日本代表特集号IV

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ラトビア戦の第3Qです。

立ち上がりから日本代表のプレスディフェンスは精度が高く、オンボール、オフボールに限らず間合いを詰めたボディアップが強烈であった。オフェンスでは、3P シュートは中々決まらず我慢を強いられるが、ディフェンスのがんばりで流れを相手に渡さない。また、フリースローの得点後の2-2-1がはまり、山本のスチールからの得点が決まる。

ラトビア代表は、相手のプレスに思うようにオフェンスが展開できず、時折2P シュートが決まるが連続得点ができない。残り5分を切ったところでようやく第1Q以来の3P が入る。

その後日本は、ひまわり、宮澤がタイミングよく3P シュートを放つが決め切ることができない。そんな中、タイムシェアで出た本橋が左コーナーから3P シュートを決める。直後リバウンドからひまわりが走り、平下からのパスに合わせてランニングシュートで得点する。続いて交代した東藤が左コーナーから3P シュートを沈め流れを呼び込む。

ラトビアは、ダブルチームをかいめぐりドライブで得点したり、オープンスペースでの3P シュートを決めたりするが、単発に終わる。

終盤日本は3P シュートだけに頼らず、空いた選手の2P シュートやペイントへのドライブからボールをキックアウトする、中を突いて外へのオフェンスが見られた。最後に安間が狭いエリアを果敢に突破し、ペイントドライブシュートを決めた。第3Q 終了時、55対42で日本がリード。

第4Q に入る。最終Q は、宮崎 (PG)、ステファニー (PF)、ひまわり (SG/PF)、宮澤 (SG/PF)、渡嘉敷 (C) という布陣。宮崎からゴール下の渡嘉敷へのパスが通り得点。続けて宮崎の高速ドライブショットが決まる。ディフェンスは得点を決めた後は、2-2-1 を継続してプレッシャーを掛け続ける。ここでも宮崎のパススチールからドライブショットがさく裂する。ラトビアはたまらずタイムアウト。

タイムアウト明け、ラトビアは、15番エースのポールベレが3P シュートを続けて2本沈める。

その後日本は残り6分弱、渡嘉敷が右ウイングから3P シュートを決めるとともに、ステファニーが1on1 から切れ味抜群のロールターンシュートを見事に決め、会場を盛り上げた。

その直後ラトビアはポールベレが、1on1 からドライブアタックやゴール下のシュートを連続して決め食い下がるが、日本は高田の2本のドライブショット、本橋が2本、吉田が1本の3P シュートが決まり突き放した。最終スコア、83対54で日本代表がラトビア代表との第1戦に勝利しました。

勝因は何と言っても、タイムシェアしながらプレッシャーディフェンスをやり続け、ラトビア代表にストレスを与え、相手がやりたいオフェンスを制限したことです。P&R からキックアウトして3P シュートを狙うラトビアの戦術は、第1Q は成功しましたが、徐々に日本にアジャストされ2Q 以降は抑えられました。この試合のラトビアのターンオーバーは、何と33回でした。33回のターンオーバーというのはあまり聞いたことがない数字です。タイムシェアを有効に使った日本のプレスディフェンスの成果が十分発揮されました。

次号では第2戦のハイライトシーンの紹介と、ワールドカップに向けての展望について書きます。